

通所型介護保険サービス事業所における結核対策に関するアンケート調査

○伊達知里¹⁾、榎田恵美¹⁾、茂三枝¹⁾、工藤裕子²⁾、岩本直安³⁾、瀧口俊一¹⁾
延岡保健所¹⁾、健康増進課²⁾、高鍋保健所³⁾

I はじめに

平成 29 年における新登録結核患者のうち 65 歳以上の患者の割合は、全国 66.7%、本県 78.3%、管内 70.0% である。高齢者は結核発病の高リスク層であることに加え、自覚症状の訴えが乏しく非典型的であることから発見が遅れやすいという特徴がある。そのため、高齢結核患者を早期発見することは個人の健康だけでなく、結核蔓延防止という観点からも重要であり、定期健康診断の受診勧奨等の対策強化が求められる。

しかしながら、市町村長が実施する定期健康診断は効果的な実施がなされていないため、平成 30 年 9 月、通所介護等の事業所・施設に対して受診勧奨の周知を徹底する旨の文書が厚生労働省から行政機関に出されたところである。そこで今回、管内の通所型介護保険サービス事業所に対して、利用者の健診受診状況を含めた結核対策の実態について調査を行い、今後の高齢者結核対策の方法について検討したので報告する。

II 対象と方法

- 1 調査対象：管内の地域密着型通所介護など通所型介護保険サービス事業所全 84 か所
- 2 調査期間：平成 31 年 3 月 15 日～平成 31 年 3 月 29 日
- 3 調査内容：管内の通所型介護保険サービス事業所に対する利用者の結核対策について
- 4 調査方法：結核対策に関するアンケートを郵送し、FAX にて回答を得た。
- 5 回収状況：回収数 67 か所、回収率 79.8%
- 6 回答職種：管理職 31 名、看護職 17 名、相談員 10 名、介護職 4 名、理学療法士 4 名、事務 1 名

III 結果

1) 事業所の結核対策に関する実態

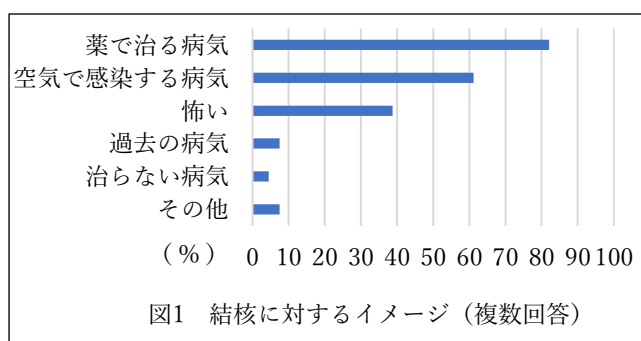
事業所の結核対策について、アンケートにより得られた結果を表 1 に示す。

表 1 管内通所型介護保険サービス事業所における結核対策の実態

	有り	無し	未回答
①. 利用者の胸部 X 線検査の把握状況	18 か所 (26.9%)	48 か所 (71.6%)	1 か所 (1.5%)
①-2. 把握していると回答した 18 か所のうち、未受診者への受診勧奨の実施状況	12 か所 (66.7%)	2 か所 (11.1%)	4 か所 (22.2%)
②. 利用者の結核既往歴の把握状況	33 か所 (49.3%)	30 か所 (44.8%)	4 か所 (6.0%)
③. 感染対策マニュアルの整備状況	63 か所 (94.0%)	4 か所 (6.0%)	0 か所 (0%)
③-2. 整備していると回答した 63 か所のうち、マニュアルに結核の記載がある事業所	38 か所 (60.3%)	21 か所 (33.3%)	4 か所 (6.3%)

2) 事業所職員の結核に対する理解

職員に対して、結核へのイメージを尋ねたところ図 1 の結果が得られた。「薬で治る病気」「空気で感染する病気」「怖い」の順で回答が多かった。「その他」については、「喀血」「隔離を要する」という旨の回答が得られた。



また、結核の症状について、知っているものを回答してもらったところ、図2の結果が得られた。「咳が続く」「痰・血痰が出る」という回答が多かったのに対し、「体重減少」や「食欲低下」への回答は、約半数にとどまった。

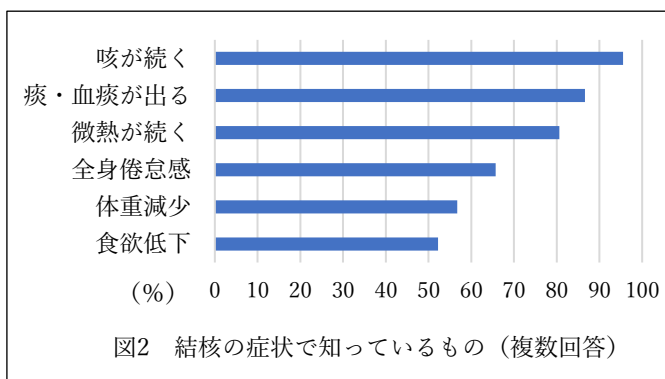


図2 結核の症状で知っているもの（複数回答）

3) 結核に関する知識を学習する機会

結核に関する研修会受講の機会について、あると回答した事業所は31か所(46.3%)、ないと回答した事業所は36か所(53.7%)であった。また、研修会受講の希望について、59か所(88.1%)が希望すると回答した。

IV 考察

高齢結核患者を呼吸器症状のみでスクリーニングすると、およそ3人に1人は発見できないといわれ、食欲低下や全身倦怠感、体重減少など呼吸器症状以外に注目する必要がある。³⁾

しかし、今回の調査結果をみると、結核に対して咳や痰等の典型的な症状のみを思い浮かべ、「怖い」「治らない病気」「過去の病気」等、かつて結核が国民病と言われていた時代のイメージを持っている職員が少なからずみられた。

高齢者は非典型的な症状を呈すだけでなく、認知症や言語障害の状態により自覚症状を訴えにくい者が多くいることから、定期健診や職員による健康観察は重要である。

しかしながら、職員による健康観察を日々実施していたとしても、その内容が不十分であれば、発病患者を見落とす危険性がある。そのため、職員の知識・理解を深めることが非常に重要であり、行政機関としてまず研修を受講できる機会を設ける必要がある。

また、約9割の事業所が受講を希望しており、結核対策におけるニーズも高い。

平常時の結核対策としては、適切に健康観察を行うため、職員がチェックリスト等のツールを利用することで、日頃から結核を念頭に入れた健康観察を行う習慣を身につけることが必要と考える。チェックリスト等のツールの活用により、職員の知識の差によるばらつきを防ぎ、全員が一定の水準で結核対策を行うことができるのではないかと考える。

今後は、職員に対して、ツールの活用方法を含めた結核に対する知識・理解を深める教育を行い、平常時から結核を視野に入れた支援を整えることで、高齢結核患者の早期発見・早期治療に繋げていくことが重要であると考えます。

V おわりに

今回のアンケート調査によって、管内の通所型介護保険サービス事業所における結核対策の実態を明確にすることができた。各事業所の結核対策の向上のためには、職員の結核に対する知識・理解を深めることが重要であると実感した。

今後は市と連携しながら健康診断の周知や事業所の結核対策強化に努め、高齢結核患者の早期発見・早期治療に繋げていきたい。

参考文献 1) 公益財団法人結核予防会：結核の統計 2018

2) 繁本憲文：高齢層における結核発症者の早期発見のための対策について、保健師・看護師の結核展望、112号、2頁-5頁、2019年

3) 平尾晋：高齢者の結核のポイント、保健師・看護師の結核展望、112号、18頁-22頁、2019年